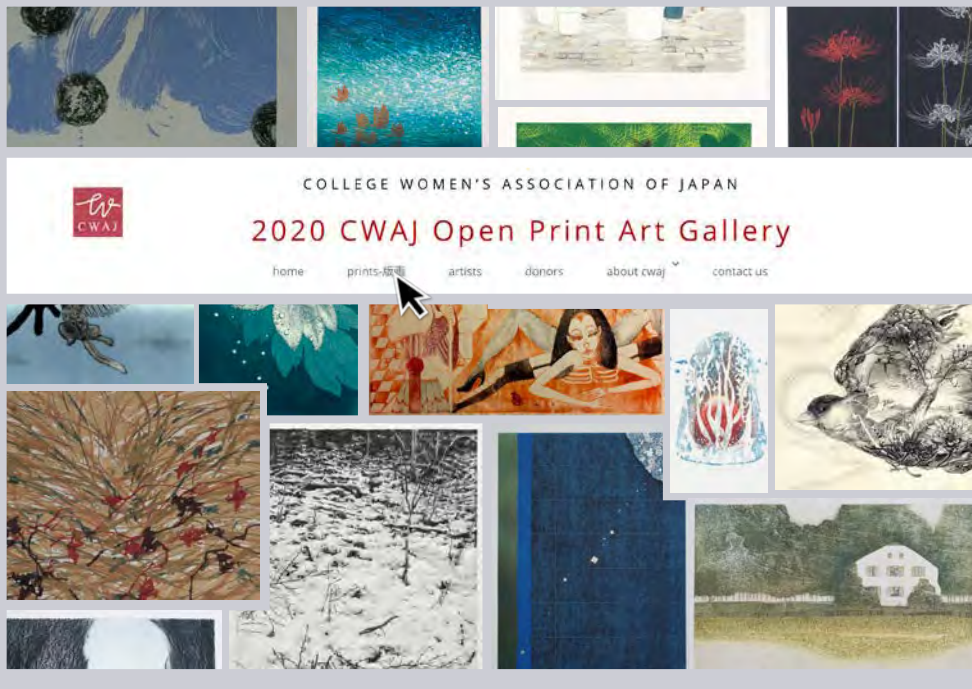




COLLEGE WOMEN'S  
ASSOCIATION OF JAPAN

# 2020 - 2021 Annual Report

MARCH 2021



## 初のオンライン開催となったCWAJ版画展

CWAJの強みは、難局に直面しても、そこに新たな可能性を見出し、いくとこにあります。2020年はまさに挑戦の年でした。つぎつぎと変わる状況に対応しながら、これまで続けてきた活動を諦めることなく可能性を求めて実現したのが、10月12日から31日まで3週間の会期で開催された、CWAJにとって初めてのオンライン展覧会“CWAJ Open Print Art Gallery”です。

1956年以来、63回にわたって開催してきたCWAJ現代版画展は、毎年多数の来場者を集め、国際的にも高い評価を得ています。日本の現代版画の魅力を広く紹介し版画家を支援する一方で、その純益でCWAJ奨学金制度を支えています。

版画展の準備は例年3月に始まりますが、ちょうどその時期がコロナ禍にぶつかり、まったく先の見えない状況になりました。多くの展覧会が中止に追い込まれていく中で未知の領域に舵を切ることは、工夫と勇気を要する決断でした。しかし、例年ヒルサイドテラスで開かれる版画展を次年に延期し、その代替としてオンライン展を開催することが6月末に正式決定してからは、新たな試みに向けて会員が一丸となって準備に当たりました。その結果231人の作家の作品が集まり、235点ものすぐれた版画をインターネット上で展示販売して、お客様にご自宅で安心・安全にお楽しみいただくことができました。同じサイト上ではバーチャルガイドツアーも行われ、個性あふれるガイドによる斬新な作品解説が好評を博しました。

また、当初はオンラインだけの展覧会の予定でしたが、青山ツリーハウスの多大なご協力を得て、10月9日にささやかなオープンの記念イベントを催すことができました。自然を取り入れた洗練された雰囲気のある青山ツリーハウスの会場で、招待作家による十数点の版画を展示販売しました。同時に版画家の湯浅克俊氏の版画技法についての興味深い講演も催され、青山ツリーハウスの会員とCWAJの招待者の方々にお楽しみいただきました。このときの版画の多くは、後日CWAJの安藤まりえ会員がご主人の洋一氏と営む画廊「ギャラリー高輪AO」でも展示されました。

こうして初めてのオンライン展Open Print Art Galleryは、予想をはるかに超える大成功を収めることができました。以前からCWAJの在外会員の間では、オンライン展をという強い要望がありましたが、今回は期せずしてその期待に応えることにもなりました。アメリカやヨーロッパなど海外からの注文が続々と入って日本の現代版画の国際的な人気を裏付ける結果となったのは、嬉しい驚きでした。

この展覧会の純益はすべて、コロナ禍への取り組みとして新設したCWAJ看護学生奨学金、および女子大学院生・視覚障害学生を対象としたCWAJ奨学金に充てられました。Open Print Art Galleryを実現させることができたのは、版画家の皆様のご協力とおお客様の温かいご支援に加え、CWAJ会員の知恵と努力、そして版画展を開催したいという強い思いがあったからです。世界中が苦難に見舞われた2020年を、可能性を模索することで乗り切ったこの経験は、今後に生かされることでしょう。



### ご支援、ご協力をお願い

CWAJは年間を通して、CWAJ教育・奨学金プログラムへのご寄付を受け付けております。皆様からのご支援が国内外で勉学を志す女性や視覚障害者達の夢をかなえ、社会に大きな力を与えています。2021年には、コロナ禍における看護学生支援プロジェクト、CWAJ看護学生奨学金を新たに立ち上げ、CWAJの教育における使命をさらに推し進めることができました。

CWAJへのご寄付は国際交流基金の「特定寄付金制度」を活用して、税制上の優遇措置が受けられます。ご寄付に関する詳細は下記までお問い合わせください。donations@cwaj.org

### お知らせ

第64回

## CWAJ現代版画展

2021年10月20日(水)～24日(日)

ヒルサイドフォーラム  
(代官山 ヒルサイドテラスF棟)

### オンラインギャラリー

10月15日(金)～31日(日)  
<https://cwaj-gallery.jp/>



新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。  
また、全国の医療従事者はじめ感染拡大防止にご尽力されている方々に深く感謝申し上げます。



作品「はだかのピアノ」

立体コピー版



左上から時計回り、1966年初めてのリトグラフ、2005年第50回CWAJ現代版画展オープニング(中央は秋篠宮妃殿下)、2013年CWAJ現代版画展特別展「百歳を寿ぐ」、2009年CWAJ併設展オープニング

## 視覚障害者と楽しむアーティスト・トーク

版画家 廣田雷風氏によるアーティスト・トークが、2020年10月24日にオンラインにて開催されました。CWAJ現代版画展では例年、視覚に障害のある来場者のために版画を立体コピーにして、説明を聞きながらさわって鑑賞していただく「ハンズ・オン・アート」というプログラムを実施しています。版画展がオンライン開催となったため、代わりに晴眼者も一緒に楽しめるようにと企画されたのがこのプログラムです。視覚障害のある参加者には、廣田氏のリノカット作品「はだかのピアノ」の立体コピーを事前に郵送して、自宅で手で触れながら講演を楽しめるようにしました。当日は視覚障害者24名を含む110名が参加しました。

これまで何度か「ハンズ・オン・アート」に協力いただいている廣田氏は、自身の生い立ちやパリでの生活、ピアノを主題に作品を作り始めるようになったきっかけ、「はだかのピアノ」の制作過程などについて、わかりやすく話してくださいました。講演終了後は、視覚障害のある参加者が小グループに分かれて英語または日本語で会話する時間を設け、廣田氏が丁寧に質問に答えるなど、充実したひと時を過ごしました。

### 参加者からは数多くのコメントが寄せられました。

- 先生の「はだかのピアノ」は二次元の中で人格を持ち何か見えない音を奏でているのを感じました。
- ピアノが真っ赤に描かれていると思っただけで、手触りまで違うはずはないけれど、何となく違う印象になりました。
- 事前に立体コピーを送っていただいて廣田先生の作品に何日か触れて今日を迎えられたことが、とっても良かったです。オンラインならではの利点だと思いました。

## 追悼： 篠田桃紅

(2021年3月1日ご逝去 享年107歳)

女性の社会進出を支えるという当会の理念の真の理解者であった篠田桃紅先生の訃報に接し、CWAJは深い悲しみに包まれました。CWAJ版画展への出品は1966年以来50回を重ね、数々の特別企画展にも快くご協力いただきました。またCWAJが日本の版画界の発展に果たした役割を高く評価し、多くの作家に参加を呼び掛けてくださいました。ことあるごとに珠玉のお話を聞かせていただいた中でも、第40回版画展の昼食会でご自分の芸術の原点となった、幼少時代に水まきをして、水の雫で石や土の色が変わる様子に魅了された体験を語られたのは印象的でした。

CWAJの先駆者ともいえる人生を歩まれた先生に敬愛を込め、作品から受けた感動や真心のこもったたくさんのお励ましのお言葉に謹んで感謝を捧げつつ、ご冥福をお祈りいたします。

## コロナ禍への取り組みとして

### 2021年度「CWAJ看護学生奨学金」を創設

パンデミックにより日本の医療体勢が逼迫する中で、看護師の献身的な活躍ぶりはたびたび話題になりました。これからの医療を担っていくべき看護学生が感染リスク予防のためアルバイトも禁止され、経済的困難に直面していることを知ったCWAJは、東日本大震災直後から9年間にわたって福島県立医科大学看護学部の学生を対象に「福島支援奨学金」を支給してきた経験をもとに、看護職を志す女子学生を対象とした給付型奨学金の創設を決めました。

この計画は多くの方の賛同を得て、各方面から寄付金が寄せられました。秋の版画展Open Print Art Galleryの純益の一部も含め、東京、神奈川、千葉、埼玉の都府県と福島県立医科大学で看護を学ぶ女子学生から選抜された6名に、年間各50万円の奨学金、総額300万円を支給することになりました。2020年7月に公示、10月に出願書類受付という短い告知期間にもかかわらず、反響は非常に大きく、この奨学金が必要とされていることがよくわかりました。

対象を女性に限定したのは、女性リーダー育成というCWAJの理念にもとづいた決断です。新型コロナの完全な終息が未だ見通せない中、CWAJ看護学生奨学金は2022年度も続けていくことになっています。

## “

### 会長からのメッセージ

2020年は異例づくしの一年でしたが、その中でもCWAJはコミュニティのニーズに応える道を模索してきました。会の71年の歴史で培ったに基づく経験を土台に、工夫を凝らして新しい道を探る日々でした。会としての活動を継続することができたのは、ひとえに皆様からの温かいご支援によるものです。特にコロナ禍における看護学生支援プロジェクトとして看護学生6名分の奨学金を実現できたことは大きな喜びです。深く御礼申し上げます。

このようにダイナミックな組織の会長を務める機会を得たことは私にとって大きな栄誉であり、また喜びでもあります。CWAJの女性たちは、困難な年であっても、日々インスピレーションの源泉でした。ご一緒に興味深いプロジェクトに取り組みながら、多様な文化への相互理解を深め、一生の宝となる友情を育ててみませんか。

CWAJ会長  
ジェイン・グライムス



## 奨学金が開く可能性への扉

困難な状況に立ち向かって挑戦するときこそ、新たな可能性がひろがるものです。2020年は厳しい行動制限の中でさまざまな困難に直面しましたが、リモート会議のおかげで選考委員会への海外会員参加が可能になるなど、多くの学びの機会に恵まれました。とくにコロナ禍への対応として新設された看護学生奨学金は、会員からも寄付者からも大きな支持を得ることができました。

(文中の奨学金の略称については、ページ下の本年度の奨学生紹介をご参照ください)

CWAJでは例年5月の月例昼食会で新年度の奨学生を紹介していますが、2021年度は、史上初のオンライン開催となりました。海外在住の元奨学生、プレス関係者、特別ゲストを含め160名が参加した月例会で2020年度奨学生7名が紹介されたのち、元奨学生の兼子莉李那さん(SVI-SJ 2017)とサウレ・ジョルダヤコヴァさん(NJG 2017)が、CWAJ奨学生であったからこそ得られたさまざまな機会や、絆の大切さについて語りました。

CWAJ奨学金は奨学生ひとりひとりの可能性への扉を開くものですが、ときには目標の達成までに不断の努力と長い時間を必要とすることもあります。過去に視覚障害学生奨学金を受けた次の3名が2020年に博士号を取得したのは、その素晴らしい例といえましょう。

## 2020年博士号取得者



**中村雅也 (2014) 教育学:**高校教諭時代に視力を失いましたが、教育への情熱は失うことなく持ち続けました。博士論文「障害教師論—インクルーシブ教育と教師支援の新たな射程」は書籍として出版され、CWAJにも寄贈されました。

**泉正之 (2015) 口腔生理学:**自身の体験から前向きな役割モデルとなって、障害者の自立を奨励しています。

**半田こづえ (2007) 芸術学:**障害を不自由ではなく、ユニークな観点をもつことだと捉えて、美術館や展覧会でより多くの人々が作品を鑑賞し、学びを得られる方法を求めて研究しています。



コロナ禍によって甚大な影響を受けながらも、2名のCWAJ海外留学大学院女子奨学生が見事に学位を取得しました。

**高橋美佐紀 (SA 2018):**オランダのワーヘニンゲン大学より森林・自然保全学修士号。

**椎間優子 (SA 2019):**英国のブライトン&サセックス大学より医学研究修士号。



また、**梁島瞬 (SVI-SJ 2019)**さんは数学の研究で2020年度中島拓奨学生に選出されました。

2021年度奨学生は5月中旬にCWAJウェブサイトに掲載します。



## 2021年度 CWAJヤング・プリントメーカー賞(YPA賞)

CWAJ現代版画展50周年を迎えた2005年に、版画界への謝意と未来を担う若い版画家への期待をこめて、ヤング・プリントメーカー賞を創設しました。応募資格があるのは、前年に版画学会主催の全国大学版画展で優秀賞を受賞した学生です。受賞作を含めた数点の作品と賞金活用の企画案をもとに、将来性と独創性に重点を置いて審査し、毎年1名に賞金50万円を授与しています。受賞者にはその年のCWAJ版画展で受賞作品を展示し、さらに3年後の版画展でも新作を発表する機会が与えられます。これまでの受賞者の多くが新進版画家として着実に歩を進めています。

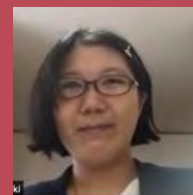
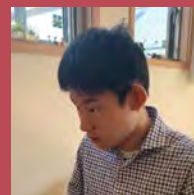
### 2021年度 YPA受賞者

**大山 葉那**  
東京造形大学(2021年3月卒業)



# 2020年度CWAJ奨学生

2020-2021年度のCWAJ奨学金は次の7名に支給いたしました。



### CWAJ海外留学文化交流大学院女子奨学金 (SA)

この奨学金は国際交流基金の支援を受けています

1名 支給額 300万円

**川端 佐代子 (かわばた さよこ)**  
ノースカロライナ大学チャペルヒル校  
作業科学学科 博士課程 (米国)

### CWAJ海外留学大学院女子奨学金 (SA)

1名 支給額 300万円

**牛尾 紗世 (うしお さよ)**  
キングス・カレッジ・ロンドン  
社会科学・公共政策学部 修士課程 (英国)

### CWAJ外国人留学生大学院女子奨学金 (NJG)

2名 支給額 各200万円

**アブシャマーラー、ノール (パレスティナ)**  
九州大学大学院地球社会統合科学府 博士課程

**アラバジエバ、ポリーナ (ブルガリア共和国)**  
上智大学大学院グローバル社会研究科 修士課程

### CWAJ視覚障害学生奨学金 (SVI-SJ)

2名 支給額 各150万円

**藤本 昌弘 (ふじもと まさひろ)**  
立教大学文学部英米文学専修4年

**杉浦 有紀 (すぎうら ゆうき)**  
金城学院大学人間科学  
部現代こども学科4年

### CWAJ福島支援奨学金 (FRS)

1名 支給額 50万円

**山口 愛由美 (やまぐち あゆみ)**  
福島県立医科大学看護学部看護学科4年



## コミュニティ・プログラム

### 視覚障害者との交流会 (VVI)

英会話の集い(ECG)は、視覚障害者とCWAJのメンバーが事前に設定された話題について英語で話し合う催しですが、2020年は大きな変化を遂げ、オンライン開催となりました。5月のECGは「趣味」、7月は「食べ物」、12月は「伝統行事」をテーマに行われ、10月には、オンライン展覧会の一環としてハンズ・オン・アートと共同で開催した版画家廣田雷風氏のアーティスト・トークの後、会話の時間が設けられました。(p2参照)

各イベントには14~22名の視覚障害者が参加し、英語のプレゼンテーションと小グループでの英会話の時間を設けました。イベント前にはオンライン方式に不慣れた参加者のための練習を実施、触知できるオブジェクト(立体印刷された作品や、雪の結晶の形のペーパークラフト)を郵送して、全員が積極的に参加できるように気を配りました。

多数の視覚障害者に加え、海外のCWAJメンバーも参加することができたのは、オンラインならではの成果でした。2021年は対面とオンラインの両方を組み合わせたプログラムの実施をめざします。

VVIはJVDCB(日本視覚障害者職能開発センター)にて英語レッスン(写真左)、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部で実用英語技能検定試験に備えるための模擬インタビュー、視覚障害者向けのVVI 会報の発行、日本点字図書館における英会話教室などの活動も行っています。

### 外国人留学生との交流会 (FSC)

FSCは日頃、外国人留学生のメンターとして、日本文化の紹介に努めていますが、新しい試みとして、立場を逆転させて、FSC所属の留学生からCWAJのメンバー向けに自国の紹介をしてもらうオンラインイベントを複数回にわたって開催しています。それぞれの国の概要から、生活や風習など興味深い内容が披露されました。ブルガリア出身のCWAJ奨学生アラバジェバ・ボリーナ氏からは、母国では首を横に振るのが肯定で、縦に振るのが否定の意味になるという紹介がありました。海外との往来が難しい時期に旅行気分を味わえる催しとなりました。参加者の中にはCWAJの海外在住メンバー、過去の留学生の懐かしい顔もみられ、にぎやかなイベントとなりました。

2020年10月には、新国立美術館での「MANGA都市TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮2020」展を留学生と共に訪れる催しを、少人数グループに分かれて3回実施しました(写真中央)。

### 子どものための英語支援の会 (EOC)

EOCは毎月1回ずつ西東京市にある児童養護施設、聖ヨゼフホームを訪問し、絵本を教材に、工作やゲーム、歌などを通じて子どもたちに楽しみながら英語に親んでもらう活動を続けています。ときにはボランティアが絵本の登場人物に扮することもあり、子どもたちは遊びながら少しずつ英語の言葉を覚えていきます。

2020年3月以降は外部からの訪問ができなくなってしまいましたが、イースター、ハロウィーン、クリスマスなどの行事に合わせてボランティアが心をこめて用意した英語の絵本やプレゼントを送り、子どもたちがせっかく覚えた英語を忘れないように交流を続けました。子どもたちから届くかわいい写真入りのサンキューカードが、希望の光となりました(写真右)。ボランティアはまた子どもたちに会える日を楽しみにしています。

## カルチュラル・プログラム

### 月例会プログラム

CWAJ会員の交流の場である月例会の中心は、さまざまな分野で活躍する講師や演奏家を招いて行われるプログラムです。2020年は、宮本卯之助商店一座の新年の祝祭にふさわしい華やかな和楽器演奏で幕を開け、2月にはシェイクスピアに深い見識を持つスチュアート・ヴァーナム・アトキン氏が楽しい逸話を語り、迫力ある朗読も披露しました。

その後はコロナ禍で一時中断しましたが、新しくバーチャル方式が導入されると、遠方での講演や海外からの参加も可能になりました。桂三輝(サンシャイン)氏の英語の落語では思いきり笑って元気もらい、CWAJのウルスラ・パートレット会員はオンライン開催となった版画展のバーチャルツアーを解説、CWAJ版画展出品作家の湯浅克俊氏は日本の版画の進歩の歴史と自身の作品制作技法を解説し、日本企業数社で社外取締役を務めるジェニファー・ロジャース氏は、米国人女性の視点から日本の企業や社会について解説しました。また、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏が紛争地帯や被災地の写真を示しながら語る現地での体験には、参加者一同胸を打たれました。

このプログラム(英語)は会員以外のご参加も受け付けています。CWAJウェブサイトをご覧ください。



CWAJとは

一般社団法人CWAJ(カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン)は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった女性会員300余名が、全員無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深めながら、首都圏を中心に教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生のべ800名以上に支給され、各界のリーダーを育ててきました。本年度からはコロナ禍への取り組みとして、CWAJ看護学生奨学金を新設しました。活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せはこちらへどうぞ。membership@cwaj.org

@TheCWAJ

@cwaj\_japan

cwaj.org



一般社団法人CWAJ

〒141-0021 品川区上大崎 2-24-13-703 | Tel/Fax 03-3491-2091

